

B-173

平成14年度
視覚障害教育研究部一般研究
研究成果報告書



平成15年3月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所
視覚障害教育研究部

まえがき

近年、教育、福祉、医療、労働などの各分野にわたってノーマライゼーションの理念に基づいた施策が国内外において進められてきている。障害のある児童生徒に対する教育については、平成13年1月の「21世紀の特殊教育の在り方について（最終報告）」においても、一人一人の教育的ニーズを把握し、必要な支援を行うとの考えに基づいて対応を図る必要があることが提言されている。

視覚障害教育研究部では、平成12年度からの3年計画で一般研究課題として「盲児のための個に応じた触覚・聴覚教材作成システムに関する研究」と、「弱視児の個に応じた指導内容・方法および支援に関する研究」の二つの研究課題を設定し、視覚障害児童生徒の個に応じた支援についての研究を進めてきた。

視覚活用が困難な盲児の学習指導においては、効果的な読み書き能力の育成として、その基礎となる探索技能の分析並びに触覚・聴覚教材の具備すべき条件など、触覚・聴覚認知の発達過程の研究に取り組んできた。とりわけ、触覚教材として3次元的要素を盛り込んだ絵画鑑賞への指導法の開発や、インターネットを活用した触覚図形教材の取り組みなどで、今後の情報化に対応した指導内容・方法に関する研究成果をまとめた。

視覚情報が制限されている弱視児の指導においては、個に応じた支援を図るための指導方法や教材情報のネットワーク構築と、早期発達や相談支援を促す医療、福祉との連携のありかたに関する実践研究を進めてきた。とくに、指導で孤立しがちになっている弱視学級の担当教師に対して、指導方法や教材活用等の情報ネットワークを構築する手立てについて、調査研究より成果が得られた。

本報告書は、これまでの教育の取り組みおよび今後の研究の方向性を指向するために、これまで研究室で分担し行ってきたものを持ち寄り、まとめたものである。本報告書が、視覚障害児の学習や暮らしに寄与できれば幸せである。関係各位からの忌憚のないご助言と今後の一層のご協力をお願いする次第である。

平成15年3月

独立行政法人

国立特殊教育総合研究所

視覚障害教育研究部長

千 田 耕 基